

# 道徳科学習指導案

令和5年12月8日（金）第5校時 3年1組教室  
みなかみ町立古馬牧小学校 3年1組 指導者 島 史哉

## 授業の視点

主人公の心情や考えを問う「分析的発問」を行った上で、中心発問で主人公への自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行ったことは、自分事としての意識を高めながら価値理解を深め、多面的・多角的な思考を促すために有効であったか。

## I 主題名 「自分とは異なる意見や考えを大切にするには」〔B 相互理解、寛容〕

資料名 「しょうたくんとあやちゃん どうしたらいいかな」 （出典：内閣府男女共同参画局  
男女共同参画推進連携会議 お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター）

## II 主題設定の理由

### 1 ねらいとする価値

本教材は、学習指導要領第3学年及び第4学年「内容項目B 主として人との関わりに関すること」の「相互理解、寛容」における「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」に基づいている。

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。また、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場を広い心で受け止めて相手への理解を深めることは、自らを高めていくことにもつながる。なぜなら、異なった意見や立場をもつ者同士が互いに尊重し合うことは、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことだからである。このように、自分とは異なる意見や立場を広い心で受け止めて相手への理解を深めることは、今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止につながるとともに、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも大切である。以上のことから、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てたい。

### 2 児童の実態（男子12名、女子9名、計21名）

本学級は、全体的に明るく活発な学級である。どの授業に対しても主体的に学習しようとする児童が多い。単学級のため、小学校1年生時から同じメンバーで過ごしていることもあり、互いの性格や好み、行動などもよく知っている。そのために、お互いに協力しあい、相手のために行動できる児童が多い。授業では、自分の考えを伝えることのできる児童が多い。また、友達が授業中の誤った発言や失敗をしたときに、冷やかすことなく、励ます声がたくさん見られる学級である。しかし、授業外では、各々の自己主張が強くなり、「男の子なのだから〇〇」「女の子だから〇〇」と言った言動が時々見られる。

これらのことから、本授業を通して、自分とは異なる考えを否定せず、受け入れ、大切にしようとする態度を育てたい。

### 3 資料について

本教材は、小学校1年生で仲の良い「しょうたくん」と「あやちゃん」が主人公の話である。ある日、お互いに大切にしている物を見せ合った際に、あやちゃんが持ってきた「ラジコン」に対して、しょうたくんは「男の子みたいで変だ」とあやちゃんをからかい、怒らせてしまった。その後、しょうたくんは母親と話し、自分とは異なる考えを否定して、自分が抱いているイメージを相手に押しつけることはよくないことだと気付き、あやちゃんに対して、謝罪をしようとする物語である。

この教材を通して、自分が抱いているイメージに固執するのではなく、自分とは異なる意見や考えを否定せず、まずは受け入れ、その意見や考えを大切にしようとする態度の育成を目指す。

### 4 校内研修との関わり

本年度の本校の校内研修の主題は、「自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成」であり、副主題は「多面的・多角的に考えるための発問や交流活動の工夫を通して」である。

本校の児童の実態として、自分に自信がもてず発表できない、善悪の知識はあっても、実際の場面で正しい判断ができない、相手の意見を取り入れ、自分の考えを深めることができないなどがあげられる。そこで、本校ではこの実態を踏まえて、道徳の授業において、「ねらいを踏まえて主人公や教材に対する立ち位置を変えた発問を工夫することにより児童の多面的・多角的な思考を促す」「児童一人ひとりが自信をもって話し合い、考えを深めていけるような交流活動の工夫」を指導のあり方の軸として、本年度の研修に取り組んできた。

本授業では、導入場面の工夫として事前アンケートの結果を提示したり、性別の違いから想起するイメージを自覚させたりする活動を通して、自分とは異なる意見や考えを認めずに傷つけていることについて再認識して、自分事として問題意識を高められるようにする。

#### (1) 発問の工夫

基本発問では主人公（しょうたくん）の心情や考えを問う「分析的発問」を行い、誰でも自分が抱えているイメージを優先したり、その時の感情の変化に流されて発言したりする可能性があることに気付かせながら人間理解を深め、主人公の言動を多面的にとらえることができるようにする。中心発問では、主人公への自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行い、自分事としての意識を高めながら価値理解を深め、相互理解の大切さについて多角的に捉えられるようにする。補助発問では、実際に言動に反映させることができるか、発言の背後にある考え方は何かを掘り下げる「揺さぶり」や「問い返し」を行い、児童の思考を活性化させて深く考えさせるようにする。

#### (2) 交流活動の工夫

共有時間を短縮しながらより多くの意見に触れられる機会をつくるために、ICTを活用し、自分の考えと友達考えを可視化して比較できるようにする。

以上の手立てにより、自分とは異なる意見や考えを否定せず、受け入れ、大切にしようとするための道徳的実践意欲と態度を育てていくようにする。

### 5 人権教育との関わり

本校の人権教育目標は、「人権尊重の精神を基盤におき、生命や人権を尊重し、他人を思いやる豊か

な人間性を備え、公正・公平な判断力にしたがって行動できる児童の育成を図る」である。男女の偏見や相互理解、自分とは異なる意見や考え方を尊重することについて考える活動を通して、男女の壁にとらわれない他人を思いやる人間性を育てていく。また、3年生の人権教育目標は、「一人一人の力を出し合い、人の気持ちを考えて、友達と仲良く助け合える子の育成を図る」とされ、本時の授業を通して、相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にしながら、友達と助け合える学級をつくっていく。

### Ⅲ 本時の学習

- 1 **ねらい** 性別によるイメージや偏見にとらわれて発言してしまったしょうた（主人公）の思いを考える活動を通して、自分とは異なる考え方を否定せず、受け入れ、大切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 2 **準備** 教師：範読教材、ワークシート、電子黒板、場面絵
- 3 **展開** 【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     主な発問（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）                      予想される児童の反応「S」                 </div>	○指導上の留意点及び支援
1 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。（5分） S:男の子は○○、女の子は○○という決まったイメージをもっている人が多いし、自分ももっている。 S:相手の考えを認めずに、相手のことを傷つけてしまったことがあるかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>&lt;めあて&gt;</b> 相手の考えを大切にするには、どうすればよいだろうか？                 </div>	○事前アンケートの結果を提示したり、性別の違いから想起するイメージを自覚させたりすることで、男女の偏見や自分とは異なる意見や考えを認めずに傷つけていることについて再認識させ、自分事として問題意識を高められるようにする。
2 教材文の範読を聞く。（5分） 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。（20分） <しょうたくんの発言> 「あやちゃんは女の子なのに車が好きなんでおかしいよ。へんなの。」「青は男の色だよ。それに車を作るのは、男の子の仕事でしょ。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ○「どうして、しょうたくんはこんなことを言ってしまったのだろうか。」                 </div>	○児童が教材文の内容を捉えやすいように、範読前に登場人物やおおまかな内容を確認する。 <span style="float: right;">【★提示】</span> ○あやちゃん的心情を考えさせることを通して、しょうたくんの発言は、自分とは異なる意見を否定し、相手の意見や思いを大切にしていないことを確認する。 ○しょうたくん的心情や考えを問う「分析的発問」を行う。これにより、誰でも自分が抱えているイメージを優先したり、その時の感情の変化に流されて発言したりする可能性があることに気付かせなが

S：あやちゃんの好きなものをばかにしているから言っ  
てはいけないことだけど、相手の気持ちを考えられて  
いなかったからだ。

S：自分の勝手なイメージから言ってしまった。相手を傷  
つけてしまうとは思っていなかった。

◎「みなさんがしょうたくんの立場になったとき、  
あやちゃんには、なんて声をかけますか。」

S：車かっこいいよね。どんな車が好きなの。

S：僕も車が好きなんだ。同じだね。

S：どんなものがあるか教えて？

◇「皆さん、男は〇〇、女は〇〇というイメージを  
もってましたね。本当にそのように言うことがで  
きますか、誰にでもそのように言うことができま  
すか。」

S：言える。

S：言えないかもしれない。

◇「どうして、そう思ったのですか。その理由はな  
んですか。」

S：仲が良いなら、つい言ってしまうかも。

S：相手が傷ついてしまうから。

◇「どうすれば言えるようになるのかな。」

S：仲良くても、相手の気持ちをしっかり考える。

S：相手の考えを否定してはいけない。

#### 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあ てについてもう一度考える。(5分)

○「相手の考えを大切にするには、どのようにすれ  
ばいいのだろうか。」

S：相手の考えをすぐにダメだと思わない。

S：相手の考えについて、理由を聞く。

S：相手の気持ちを考えながら話をする。

ら人間理解を深め、主人公の言動を多面  
的にとらえることができるようにする。

○自分事として自覚を高めながら価値理解  
を深め、自分とは異なる相手の意見や考え  
を大切にするためにできることを多角的  
に捉えられるように、しょうたくんへの自  
我関与を促しながら自分の気持ちや考え  
を明らかにする「投影的な発問」を行う。

○互いの考え方を確認しながら、意見交流を  
行い、考え方を深められるように、クラウ  
ド上の共有スライドを活用する。

【★共有・データの保存・一覧表示】

○色々な意見に触れられるように、意見を持  
った児童から、児童間で交流をさせる。

○親しい関係性にある相手に対しての日頃  
の言動を振り返らせる補助発問を行うこ  
とにより、誰にでも同様な言動を行うこと  
ができるかを考えさせ、児童の思考を活性  
化させていく深く考えられるようにする。

○児童が導入時の自分と比較しながら考え  
られるように、導入時に使った資料をもう  
一度提示し、クラス全体で共有する。

○本時のめあてについて、どのようなことを  
改めて感じたかを考えられるように、本時  
の展開を振り返る。

<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分)</p>	<p>○よりよい自己の生き方への思いや願いを明確にするため、今までの自分、これからの考えや行動について気付いたことを記述させる。</p>
<p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <p>S：今までは、自分の勝手なイメージで相手の好きなものをからかってしまう時があったと思いました。これからは、相手の考えを大切にするために、自分のイメージと違っていても、相手の考えを否定することはせずに、相手の気持ちや理由をしっかり聞いて話をするようにしたい。</p>	

<p><b>◆評価基準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや発言から、「自分と異なる意見を大切にするについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。</li> <li>・ワークシートや発言から、「相手の意見や考えを大切にするためにできることについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。</li> </ul>
--

4 板書計画

「相手の考え」  
逆 へん?

めあて  
相手の考えを大切にするには、  
どうすればいいだろうか?

あやちゃん... かない、いやな気持ち  
さがしているから。  
相手の気持ちを考えてないから。

◎相手の考えをみとめる  
◎否定してはいけない

言っては  
いけない